



2025年02月 現在

Fujitsu Software

Systemwalker Desktop Patrol V16.2.1

Systemwalker Desktop Patrolは、パソコンのソフトウェア・ハードウェアの資産管理、セキュリティ管理 (セキュリティ監査、セキュリティパッチの自動配付・適用、使用禁止ソフトウェアの設定、廃棄パソコンの管理)、リモート操作などの機能を持ったICT機器を管理するソフトウェアです。

クライアント数十台程度の部門規模から全社レベルの大規模システムに適用可能です。

- **管理サーバ(CS)**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / FUJITSU Cloud Service S5 / パブリッククラウド

- **中継サーバ(DS)**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / FUJITSU Cloud Service S5 / パブリッククラウド

- **クライアント(CT)**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FMV / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / FUJITSU Cloud Service S5 / パブリッククラウド

- **管理コンソール(AC)**

FMV / マルチベンダーサーバ・クライアント

- **自動検知モジュール(ADT)**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FMV / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / FUJITSU Cloud Service S5 / パブリッククラウド

- **ゲートウェイサーバ(SS)**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / PRIMERGY / FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS / FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン / FUJITSU Cloud Service S5 / パブリッククラウド

- **リモート操作**

PRIMEQUEST 4000シリーズ / PRIMEQUEST 3000/2000シリーズ / PRIMEQUEST 1000シリーズ / マルチベンダーサーバ・クライアント / FMV / PRIMERGY

- **管理サーバ(CS)**

Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **中継サーバ(DS)**

Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **クライアント(CT)**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **管理コンソール(AC)**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10

- **自動検知モジュール(ADT)**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **ゲートウェイサーバ(SS)**

Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

- **リモート操作**

Windows 11(64-bit) / Windows 10(64-bit) / Windows 10 / Windows Server 2022(64-bit) / Windows Server 2019(64-bit) / Windows Server 2016(64-bit)

1. 省電力設定

「稼働パソコンの台数」、「消費電力量」、「電力コスト」、「CO2排出量」の単位時間あたりの推移をレポートで出力できます。

またサーバ側からはグループ単位でパソコンの省電力ポリシーの設定、クライアント側では設定状況の表示ができます。これにより無駄な電力消費の抑制、省電力へのユーザー意識の向上が可能です。

以下の電源設定項目の監査レポート(省電力設定状況レポート、および電力消費量の監査レポート)出力ができます。

また、*印の項目について、ポリシーに違反しているパソコンに対して自動対処ができます。

- モニタの電源管理(無操作状態でのモニタ電源切断設定の有無、電源切断までの時間設定) *
- ハードディスク電源管理(無操作状態でのハードディスク電源切断設定の有無、電源切断までの時間設定) *
- システムの電源管理(システムスタンバイに移行するまでの時間設定、システムスタンバイ状態(注)への強制移行、休止状態に移行するまでの時間設定) *
- プロセッサ(無操作状態でのクロック数低下設定の有無)

(注) システムスタンバイ状態の場合においてもウィルス対策ソフトウェアの設定によるウィルスチェックができます。

2. セキュリティの管理

(1) セキュリティパッチ自動適用および適用確認

ソフトウェア辞書の情報を基にマイクロソフト社公開サイトからパッチのダウンロード、クライアントパソコンへのコンテンツダウンロード、適用を自動で行うことができます。

部門全体またはパソコン単位でセキュリティパッチ適用有無を確認できます。部門ごとに影響のないパッチのみ適用する条件を指定することで自動的に適用できます。また、Wake On LAN機能を用いた自動電源の制御や、Wake On LANが非サポートとなる無線LAN環境においてもスリープ・休止状態から復帰してのパッチ適用など、夜間にセキュリティパッチを適用する運用が可能です。

Windows 10の差分更新プログラムの配信、クイック実行形式のOffice更新プログラムの配信にも対応しています。

(2) ウィルス対策ソフトウェアのパターン定義ファイル適用確認

標準提供のソフトウェア検索辞書の適用により、部門全体またはパソコン単位でウィルス対策ソフトのパターン定義ファイルの適用状況を確認できます。

(3) セキュリティ監査

以下のセキュリティ項目の監査レポート出力ができます。

また*印の項目について、ポリシーに違反しているクライアントパソコンに対して自動対処ができます。

- オペレーティングシステム名
- Windows更新プログラムの適用状況*
- Windowsセキュリティ情報(Windows Update自動更新設定の有無、ユーザーアカウント制御設定の有無) *
- ログオン状況(自動ログオン設定、「ようこそ画面」表示設定、最終ユーザーIDの表示設定) *
- Windowsログオンパスワード(Guestアカウントの有効/無効の設定、脆弱性パスワード設定の有無)
- スクリーンセーバー(スクリーンセーバーパスワード設定の有無、起動時間設定の有無、待ち時間設定の有無) *
- 共有フォルダ(Everyoneアカウントの書き込み/読み込み権の有無)

- Internet Explorerセキュリティゾーン（セキュリティゾーンの設定状況）*
- ファイアウォール（Windows、TrendMicro、Symantec、McAfeeの設定有無）
- BIOS/ハードディスクパスワード（BIOS/ハードディスクのパスワード設定有無）
- ウイルス対策ソフトウェア（リアルタイムスキャン、定時スキャン、スキャン範囲の設定など）
- 暗号化ソフトウェア（設定された暗号化ソフトウェアのインストール有無）
- Google デスクトップ（「複数のコンピュータ上のデータ検索」機能の有効・無効設定）*
- 禁止ソフトウェア（設定された禁止ソフトウェアの検出・削除）*
- パソコン未利用時の自動ロック（ロックまでの時間、パスワードの入力）/パスワード長/アカウントロック*

(4) 使用禁止ソフトウェアの検知と削除

ウイルスチェックソフトのアンインストールやWinnyなどのファイル共有ソフトのインストールを検知してアラーム通知することができます。

また、クライアントパソコンで使用が禁止されているソフトウェアが導入されている場合、そのソフトウェアの起動を禁止することができます。

(5) パソコンのグルーピング

論理的なグループによる動作ポリシーを設定できます。

セキュリティパッチの適用スケジュールやインベントリ収集スケジュールなど、お客様の運用に合わせた柔軟なグルーピングができます。

(6) 簡易操作ログ収集

クライアントパソコンでユーザが操作した以下のログや操作結果を収集します。

- 利用者が表示したウィンドウタイトル
- 使用禁止に設定したアプリケーションの起動による警告や停止の情報
- 利用者のログオン/ログオフの状況
- システムの起動時刻/終了時刻

(7) 運用対処の通知

セキュリティや省電力の設定に問題のあるクライアントパソコン利用者へメッセージを通知します。

利用者が未対処の場合には、システム管理者、または部門管理者が対処することもできます。

対処結果は自動的にメールを作成してシステム管理者、または部門管理者に通知します。

(8) Windows Server Update Services(WSUS)連携機能

WSUSを利用した更新プログラムの適用や監査を行う機能です。

WSUS未導入または導入済どちらの環境においても、Systemwalker Desktop Patrolを導入することで、WSUSと連携して運用を行えます。

WSUSではセキュリティパッチの適用結果はパソコンごとに確認しますが、Systemwalker Desktop Patrolを導入することで全ての管理対象のクライアントパソコンをまとめて確認することができます。

また、WSUSからの更新プログラムを自動適用するまでの日数を複数設定することや、更新プログラムのダウンロードのみ先行で実施すること、管理サーバ(CS)に更新プログラムの誤承認抑止リストファイルを登録して承認対象を制御すること、更新プログラムのクライアント(CT)による配信中継も可能で、適用時の負荷分散や業務に応じた運用が行えます。

(9) Windows BitLockerとの連携

クライアントパソコンのディスク暗号化機能「BitLocker」の情報を収集し、クライアントパソコンのディスクの暗号化状態をドライブ単位で把握できます。

また、暗号化を行った際にOSが自動生成、または管理者が設定したパスワードIDと回復パスワードを収集し、クライアントパソコンの利用者のパスワード忘却などに備えることができます。

(10) 書き込み保護PCへのセキュリティパッチの適用およびファイルの配信の自動化

書き込み保護が「有効」のクライアントパソコンへ、セキュリティパッチの適用およびファイルの配信の自動化が可能です。

(11) ネットワークセキュリティ製品連携による検疫

ゼロトラストネットワークセキュリティ製品(注1)と連携して、セキュリティパッチの未適用状態が猶予期間を超過した際に、対象の端末のネットワークへの接続を自動で禁止します。

接続禁止が行われた際においても、ネットワーク連携を行い遠隔でパッチ適用を実施した接続許可復旧が可能で、これにより社外接続時における利用者へのセキュリティパッチ適用の啓蒙と、万一の際の強制適用が可能となります。

(注1) 富士通が提供するFENICS CloudProtect Zero Trust Network powered by Prisma Access from Palo Alto Networks、FENICS CloudProtect WEBプロキシ(アセットセキュアアクセス)と連携が可能です。

(12) ローカルブレイクアウト機能

社内ネットワークを利用せず、セキュリティパッチ(WSUS/クイック実行形式のセキュリティパッチ)を配信したい場合、適用するセキュリティパッチのダウンロード先切替を行うことができます。

端末から社内ネットワークの管理サーバへ新着パッチの有無を問い合わせ後、直接インターネット経由でセキュリティパッチをダウンロードすることができます。これによって、社外からの社内ネットワーク接続時のネットワーク負荷軽減を図り業務影響を軽減します。

3. 資産管理

(1) インベントリ情報収集

管理対象のクライアントパソコンのハード/ソフト情報を自動収集して実態を把握できます。インベントリ収集タイミングは、ポリシー定義で、システム起動時/ログイン時/時間帯指定などスケジュール運用が可能です。

管理対象のクライアントパソコンではセキュリティポリシー(BIOSパスワード設定、Windowsログオン設定、ウイルスチェックソフトの導入など)に違反しているクライアントパソコンを検出、インストールが禁止されているアプリケーションを検出できます。

また社外からVPN(Virtual Private Network)にて社内に接続するようなモバイル運用を行う場合、モバイルパソコン上の「Systemwalker Desktop Patrol CT」に対して、モバイルパソコンの負荷軽減のための動作ポリシー(インベントリ収集の停止)を設定することができます。

(2) ソフトウェア情報収集

ソフトウェア検索辞書定義無しでWindowsのコントロールパネルのアプリケーションの追加と削除に表示されているソフトウェア情報を収集・参照できます。

(3) ソフトウェア稼働情報収集

クライアントパソコンで実際に実行されたアプリケーション名や実行回数のソフトウェア稼働情報を収集・参照できます。

(4) 資産管理台帳の作成と維持

インベントリ情報を収集して資産管理台帳の作成、および適宜台帳へ反映し、常に資産管理台帳を最新状態に維持できます。

新規に導入、または移動されたパソコンやネットワーク機器(注)を自動検知して資産管理台帳と比較して確認できます。

また、CSVファイル、EXCEL形式ファイルのデータ移入、または手動入力により各種機器の資産管理台帳作成が行えます。

(注) ネットワーク機器の場合は、自動検知モジュール(ADT)が導入されているネットワークセグメント内で自動検知できます。

ICMP/SNMPに対応しているネットワーク機器の場合は、自動検知モジュール(ADT)を導入せずにネットワークセグメントを超えて自動検知できます。

(5) 履歴管理

ICT機器の設置、移設/譲渡、棚卸、返却/廃棄までのICT機器の一連のライフサイクルの状態変更を管理することで、過去に遡ったICT機器のトレーサビリティの確保(保全が継続されていることの証明)を実現します。

(6) ロケーションマップ機能

資産管理台帳で管理しているICT機器を配置したフロアをイメージしたレイアウト図を自動的に作成できます。

作成したレイアウト図から機器の詳細情報、契約情報、セキュリティ監査結果が参照可能です。

(7) 他システムからのデータ移入

資産管理台帳は、CSVファイルでのデータを移入可能です。他システムからのデータ移入を簡単に行うことができます。

(8) 機器の棚卸支援

パソコンのインベントリ情報を元にした情報やパソコンまたはネットワーク機器を自動検知した情報により、棚卸を省力化/効率化します。

4. ライセンスの管理

(1) ソフトウェアの購入数の管理

ソフトウェア検索辞書の適用により、購入ソフトウェア数と使用数の管理ができます。

(2) 違反検出通知

ライセンス割り当て結果から違反を自動検出して管理者に通知します。

(3) 業務以外のソフトウェア使用への警告/実行抑止

予め設定したアプリケーション(exe単位)を実行した時に、クライアントパソコンの画面に警告メッセージを出すことや実行を抑止することができます。

(4) ソフトウェア辞書の簡易定義機能

収集したソフトウェアの情報を基に、ソフトウェア辞書の定義を簡易に作成できます。

(5) ソフトウェア資産管理(SAM(注1))対応

ソフトウェア資産管理に必要な資産台帳をもとにライセンスの使用状況を規格(注2)に則して適切に管理できます。

(注1) Software Asset Management の略称。

(注2) 国際規格ISO/IEC19770 - 1:2006、日本工業規格JIS X0164-1:2010

5. ソフトウェア配信

(1) パソコンに対するソフトウェア配信

コンテンツダウンロードしたソフトウェアのインストールなどをクライアントパソコンの特権ユーザーの資格で実施できます。Administratorのパスワード統一などの条件が不要です。

6. ディスク消去管理

ディスク消去機能は、ディスク消去時期が近づいているPCを計画的に管理し、確実なディスク消去処理を実施できる機能です。

(1) ディスク消去計画

リース切れパソコンや、CPUレベルが低いパソコンなど、廃棄時期を計画的に管理することができます。

管理者は、ディスク消去時期が近づいているPCを分けグループを作成します。

(2) ディスク消去実行

管理者からディスク消去指示された、ディスク消去対象PCのユーザーは、PCベンダが提供するディスク消去ツールなどを使用してデータ消去し、完了したことを管理者に通知します。

(3) ディスク消去情報管理

廃棄されたパソコンの情報をインベントリ情報から削除し、またライセンスの再利用など効率的な情報管理を行うことができます。

ディスク消去情報は、管理サーバ(CS)で一元管理します。

管理者は、以下のことができます。

- ・ 情報の一覧をCSVファイルにダウンロードする
- ・ ディスク消去状況を更新、確認する
- ・ ディスク消去PCのインベントリ情報（ハードウェア情報およびリース情報）を参照する

7. パソコンの契約（リース/レンタル/保守）管理

(1) リース/レンタル契約の管理

パソコンとリース/レンタル契約を紐付けて管理します。リース/レンタル契約満了前、および契約満了日に管理者へメールで通知することができ、契約の継続および、返却を確実に行うことができます。

(2) 保守契約の管理

リース/レンタル契約と、パソコンの保守契約を関連付けて管理できます。故障への対応をスムーズに行うことができます。

8. リモート操作

(1) リモート操作

サポートスタッフ(以下エキスパートと呼ぶ)は、自分のキーボードやマウスを使って、エンドユーザー(以下クライアントと呼ぶ)のコンピュータをリモート操作することができます。

(2) セッションの記録・再生機能

セッションを行った際の操作内容を動画情報としてエキスパート側に保存できます。保存した内容はエキスパートのSystemwalker Live Help Replay機能で再生することができます。リモート操作した内容を、作業後に再確認することができます。

(3) ファイル転送、クリップボード送信・受信

トラブルの解析などの目的でクライアントのファイルを受信したり、最新版のプログラムやテンプレートなどをクライアントにファイル送信することができます。また、クリップボードの内容をエキスパートとクライアントの間で送受信することもできます。

(4) OS認証方式のサポート

従来のSystemwalker Live Helpパスワード認証方式に加え、OS認証方式をサポートしました。Systemwalker Live Helpクライアント側のOSが使用している認証データベースActiveDirectoryに登録されているユーザー名/パスワードを使用して、Systemwalker Live Helpのセッションを行うことができます。

(5) リモートデスクトップ対応

リモートデスクトップ機能とSystemwalker Live Helpの同時動作ができます。

これにより、以下のような接続ができます。

- リモートデスクトップからターミナルサービスが動作する中継サーバに接続し、中継サーバ上のSystemwalker Live Help Monitorを起動してSystemwalker Live Help Clientが動作する別端末に接続する
- Systemwalker Live Help ExpertまたはMonitorからSystemwalker Live Help Clientが動作する中継サーバに接続し、中継サーバ上のリモートデスクトップを起動してターミナルサービスが動作する別端末に接続する

(6) Systemwalker Live Helpセキュリティ設定機能の追加

Systemwalker Live Helpセキュリティ設定コマンドにより、管理者権限を持たないユーザーが使用した場合のプログラムの動作、表示情報を制限できます。

9. 資産管理/セキュリティ監査のレポート出力

以下の資産管理情報およびセキュリティ監査結果をレポート形式で出力します。資産管理状況の把握、監査情報の一部として利用することができます。

(1) 資産稼働状況一覧レポート

使用資産、および遊休資産の一覧レポートです。

(2) 契約一覧レポート

リース、レンタル、保守契約の資産の一覧レポートです。

(3) 棚卸状況レポート

資産の棚卸の実施結果のレポートです。

(4) ライセンス使用状況レポート

ソフトウェアのライセンス使用状況のレポートです。

(5) セキュリティ監査レポート

Systemwalker Desktop Patrol、Systemwalker Desktop Keeperで実施しているセキュリティ対策について、運用状況やリスクのある部門/パソコンを把握・評価するために出力される監査/証明用レポートです。

(6) 省電力設定/監査レポート

電源設定項目の監査レポート(省電力設定状況レポート、および電力消費量の監査レポート)出力ができます。

10. 連携と運用支援

(1) ActiveDirectory連携

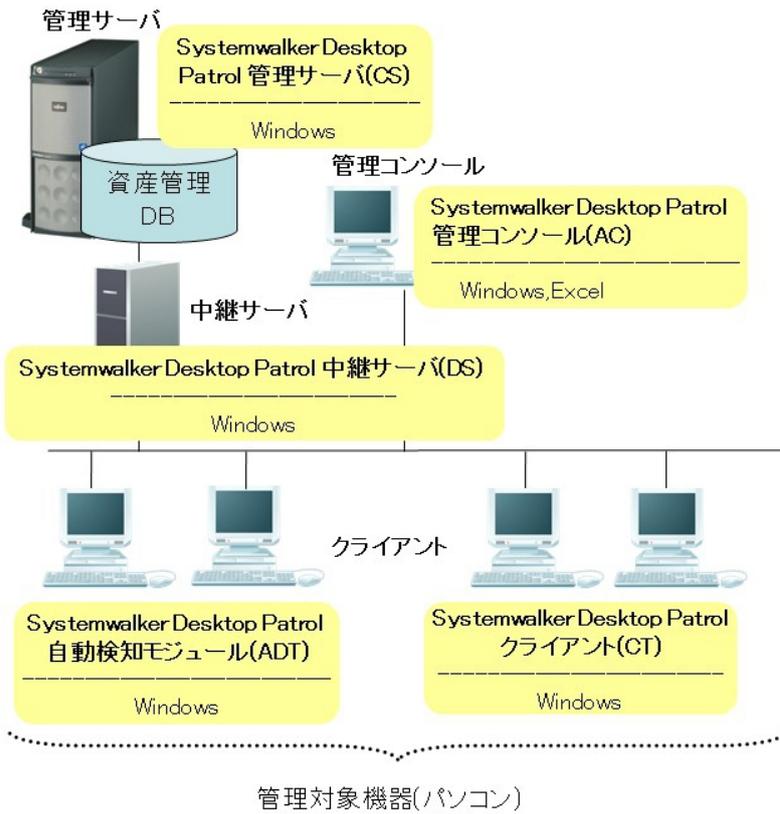
ActiveDirectoryで管理されている組織情報をタイムリーに取り込み、資産情報とあわせて一元管理できます。

(2)複合機連携

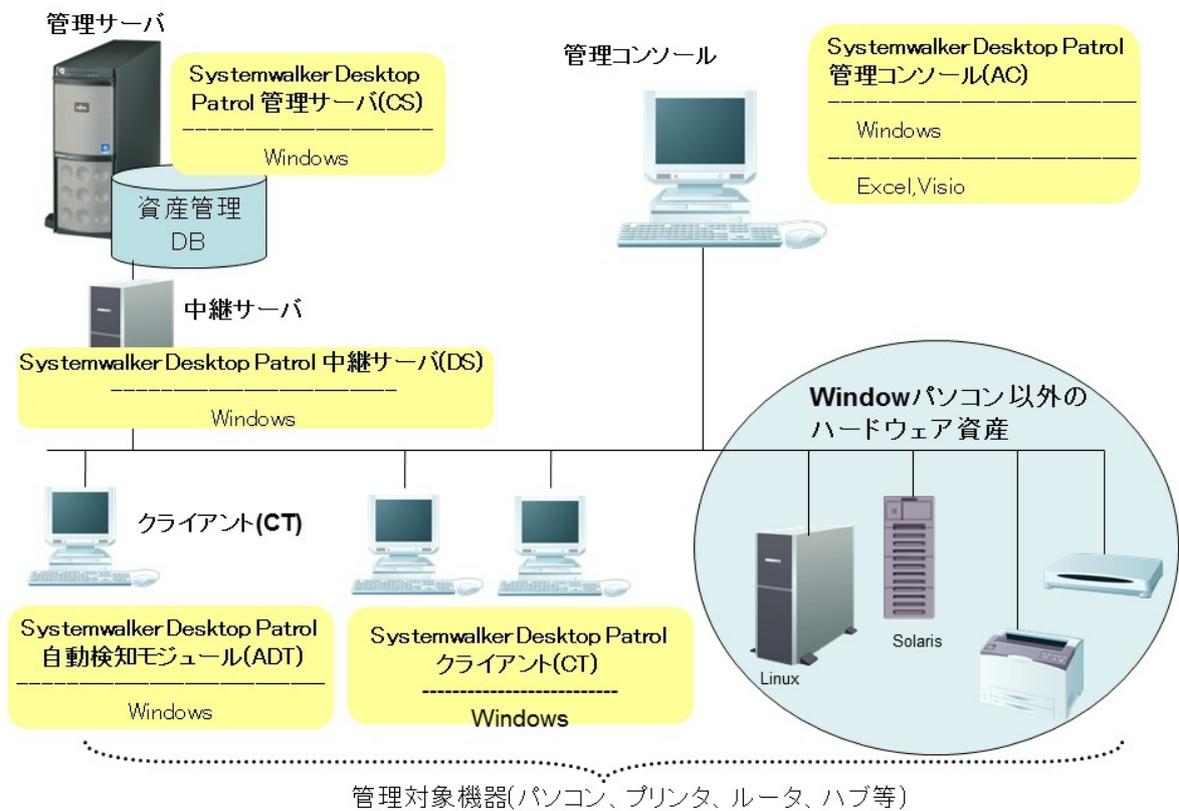
複合機と連携して以下のレポートを出力します。

- 電気代
- 消費電力量
- CO2排出量
- 稼働状況の比率、稼働時間の推移

(運用例1) ハードウェア/ソフトウェア資産管理 + セキュリティ管理



(運用例2) ハードウェア資産管理 + ロケーションマップ機能



システム構成要素

システムの構成要素について以下に説明します。

【管理サーバ(CS)】

管理対象となる各パソコン(CT)から収集したインベントリ情報を基に作成されたIT資産情報、および人や所属部署などの組織情報を格納したデータベースにより、セキュリティパッチ適用、セキュリティ監査やライセンス管理を行うサーバです。

【中継サーバ(DS)】

運用ポリシー、インベントリ情報、ダウンロードコンテンツなどの集配信の中継 / 格納をサービスするサーバです。負荷分散などの中継する必要があるときに設置します。

【管理コンソール(AC)】

バーコード、レポートの出力、ロケーションマップ機能の操作を行う管理者コンソールです。

【自動検知モジュール(ADT)】

同一ネットワークに接続しているIT機器を自動検出します。

【クライアント(CT)】

配信ソフトウェアのダウンロード、セキュリティパッチの受信を行います。
また、管理者の設定により、省電力ポリシーの違反、セキュリティポリシーの違反があると、対処を促す画面が表示されます。

【ゲートウェイサーバ (SS)】

インターネット環境から接続するパソコン(CT)を管理する場合に導入が必要なサーバです。

V16.2.0からV16.2.1の機能強化項目は以下のとおりです。

1. 新環境対応

以下のOSに対応しました。

- Windows 11 IoT Enterprise LTSC

以下の仮想環境に対応しました。

- VMware Horizon 8 2306/2309/2312/2406
- Citrix Virtual Apps and Desktops 2308/2311/2402 LTSR/2407

以下のソフトウェアに対応しました。

- Microsoft Office 2024
- Microsoft Excel 2024
- Microsoft Visio 2024

2. パッチ適用スケジュールの機能拡張

ソフトウェア辞書及びWSUS適用におけるパッチ適用のポリシーで、期間（指定週、曜日と日数）を指定して月次パッチ適用スケジュールを制御する機能を提供しました。これにより、運用担当者は導入時に一度ポリシーを設定するだけで、継続的なパッチ適用運用を実現できます。

3. WSUSの更新プログラム配信における誤承認抑止機能

WSUSによる更新プログラムの適用で、社内アプリの動作干渉等、適用に問題があるパッチの発覚に備え、問題が発生する更新プログラムのリスト（誤承認抑止リスト）をもとに、適用に問題のない更新プログラムのみを承認対象として表示する機能を提供しました。これにより、問題のある更新プログラムの誤承認を防ぎ、安全にパッチを適用することができます。

4. WSUSの更新プログラム一覧の機能拡張

WSUSの更新プログラム一覧に「公開日」の項目を追加しました。

5. ファイルの配信機能の操作日時について

ファイルの配信に「開始」「停止」を操作した日時の表示を追加しました。

6. クイック実行形式のセキュリティパッチの配信/適用機能の対象製品を追加

クイック実行形式のセキュリティパッチの配信/適用機能の対象製品としてMicrosoft Office 2024を追加しました。

・ オンラインマニュアル

- Systemwalker Desktop Patrol V16 リリース情報
- Systemwalker Desktop Patrol V16 解説書
- Systemwalker Desktop Patrol V16 導入ガイド
- Systemwalker Desktop Patrol V16 運用ガイド 管理者編
- Systemwalker Desktop Patrol V16 運用ガイド クライアント編
- Systemwalker Desktop Patrol V16 リファレンスマニュアル
- Systemwalker Desktop Patrol トラブルシューティングガイド
- Systemwalker Live Help ユーザーズガイド
- Systemwalker Live Help Client ガイド

【メディア】

- ・ Systemwalker Desktop Patrol メディアパック (64bit) V16.2.1

【サブスクリプションライセンス/サポート】

[サブスクリプションライセンス/サポート(月額払い)]

- ・ Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Desktop Patrol ゲートウェイサーバライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 10クライアントライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 100クライアントライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 500クライアントライセンス for Windows (SL&S)
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 1000クライアントライセンス for Windows (SL&S)

[サブスクリプションライセンス/サポート(まとめ払い)]

- ・ Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Desktop Patrol ゲートウェイサーバライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 10クライアントライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 100クライアントライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 500クライアントライセンス for Windows (SL&S) 7年
- ・ Systemwalker Desktop Patrol 1000クライアントライセンス for Windows (SL&S) 7年

クライアントパソコンのセキュリティ環境を一括して管理する製品「Systemwalker Desktop Patrol」と、情報漏洩対策を行う製品「Systemwalker Desktop Keeper」の機能を、管理対象クライアント300台限定で使用できるセット商品があります。

詳細は、「Systemwalker Desktop Patrol/Keeper キャンペーン V16」ソフトウェア・ガイドを参照してください。

1. メディアパックの種類について

本商品のメディアパックは64bit版のみです。

2. メディアパックについて

メディアパックは、媒体（DVD）のみの提供です。使用権は許諾されておりませんので、別途、ライセンスを購入する必要があります。初回購入時には、最低1本のメディアパックとサブスクリプションライセンス/サポートを同時にご購入ください。

本メディアパックの購入でバージョンアップ/レベルアップおよび、32ビット商品と64ビット商品間での切り替えをすることはできません。

バージョンアップ/レベルアップする場合は本メディアパックを購入せず、アップグレード権を行使してメディアを入手してください。

3. サーバライセンスについて

(1) 管理サーバ(CS)は、サーバ台数分、サーバライセンスを購入してください。

(2) 中継サーバ(DS)を設置する場合、中継サーバ1台をクライアント1台と換算して、クライアントライセンスを購入してください。中継サーバは、サーバライセンスは不要です。

(3) 管理コンソール(AC)および自動検知モジュール(ADT)は、インストールフリーです。

(4) リモート操作は、サーバライセンス毎に、1台のコンピュータにインストールすることができます。

2台以上に適用する場合は、以下の商品を必要台数分、購入してください。

- Systemwalker Live Help Expert

(5) ゲートウェイサーバ(SS)は、クライアント(CT)をインターネット環境から接続する場合に、サーバ台数分、ゲートウェイサーバライセンスを購入してください。

4. クライアントライセンスについて

(1) クライアント(CT)は、管理対象コンピュータ台数分、購入してください。

(2) 本ライセンスはWindows OSのパソコンに対応します。

5. 仮想環境におけるライセンスの考え方

仮想環境における必要ライセンス数の考え方は以下のとおりです。

(1) クライアントOS上で動作する仮想クライアントPC

仮想クライアントPCに接続する物理PC台数分のクライアントライセンスが必要です。

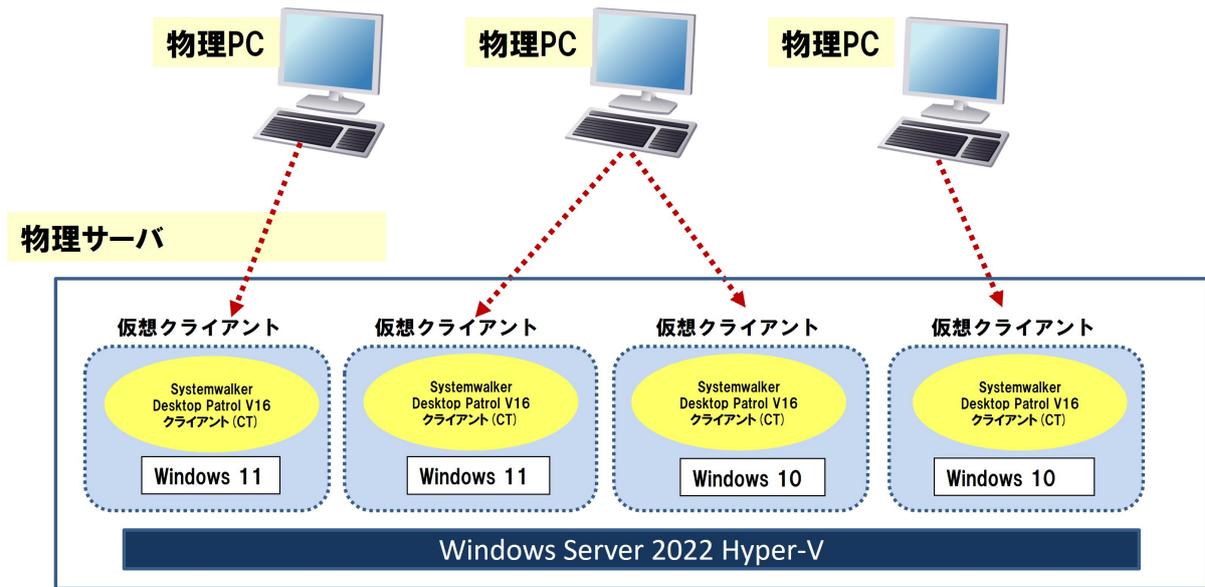
(2) サーバOS上の仮想クライアントPC、および仮想サーバのライセンス

関連URL(お客様向けURL)に記載の「ソフトウェア：富士通(インフォメーション&ダウンロード)」内、「富士通製ソフトウェアのライセンス体系」の「仮想環境利用時のライセンス購入方法」をご参照ください。

(3) 仮想環境における必要ライセンスの考え方(例)

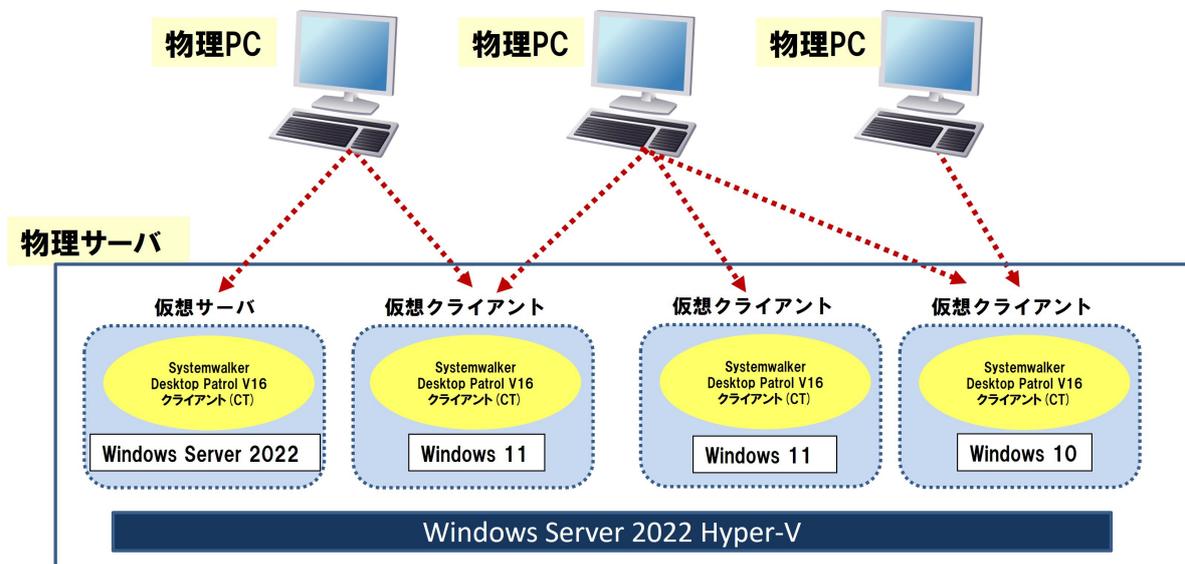
仮想環境におけるSystemwalker Desktop Patrolのライセンス購入の考え方は以下のとおりです。

(例1)仮想クライアントのすべてがクライアントOS上で動作する場合



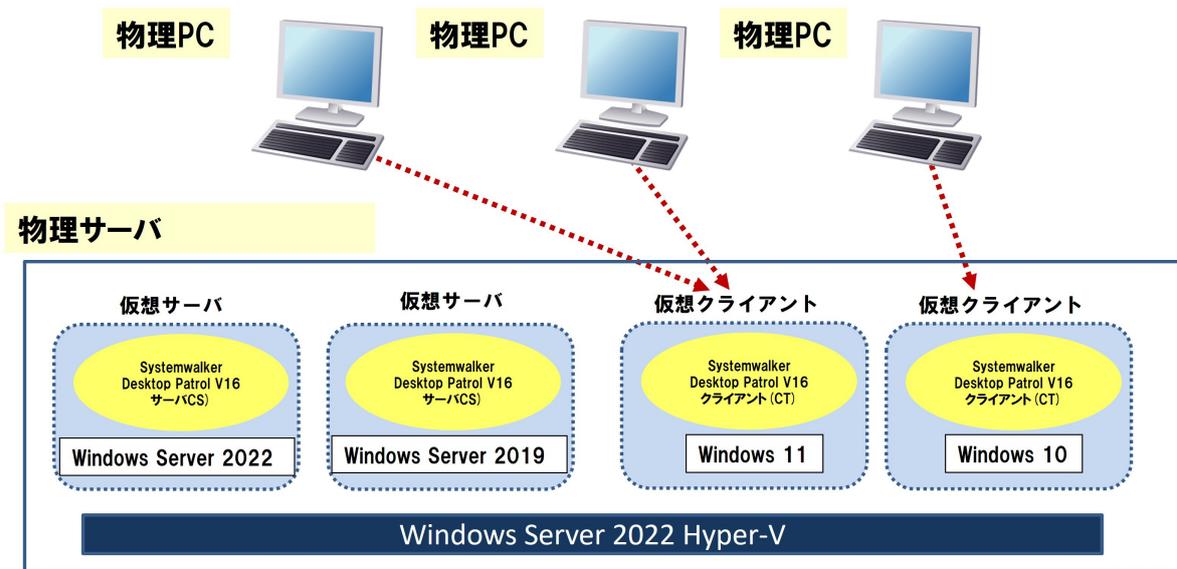
購入数の考え方	対象製品	購入数
仮想クライアント (Systemwalker Desktop Patrol V16がクライアントOS上で動作) に接続する物理PC台数分	Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows	3

(例2)サーバOSで動作する仮想クライアントがある場合



購入数の考え方	対象製品	購入数
仮想クライアント (Systemwalker Desktop Patrol V16がクライアントOS上で動作) に接続する物理PC台数分	Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows	3
仮想サーバ (Systemwalker Desktop Patrol V16がサーバOS上で動作) が動作する物理サーバ台数分	Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows	1
		合計: 4

(例3)仮想サーバと仮想クライアントが混在する場合



購入数の考え方	対象製品	購入数
Systemwalker Desktop Patrol V16が動作する仮想クライアントPCに接続する物理PC台数分	Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows	3
仮想サーバ (Systemwalker Desktop Patrol V16がサーバOS上で動作) が動作する物理サーバ台数分	Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows	1

6. ダウングレード使用について

本商品には、旧バージョン製品へのダウングレード使用权はありません。

7. 購入例

以下の運用例のシステム構成において、購入対象商品と購入数は下記のようになります。

(1) 運用例1のシステム構成の場合

管理サーバ(CS) : 1台

中継サーバ(DS) : 2台(注1)

クライアント(CT) : 300台

〔対象製品と購入数〕

- Systemwalker Desktop Patrol メディアパック (64bit) V16.2.1 必要数分
- Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows 2本
- Systemwalker Desktop Patrol 100クライアントライセンス for Windows 3本

(2) 運用例2のシステム構成の場合

管理サーバ(CS) : 1台

中継サーバ(DS) : 1台(注1)

自動検出モジュール(ADT) : 1台(注2)

クライアント(CT) : 100台

〔対象製品と購入数〕

- Systemwalker Desktop Patrol メディアパック (64bit) V16.2.1 必要数分
- Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 100クライアントライセンス for Windows 1本

(3) 運用例3のシステム構成の場合

管理サーバ(CS): 1台

中継サーバ(DS): 1台(注1)

自動検出モジュール(ADT): 1台(注2)

管理コンソール(AC): 1台(注2)

クライアント(CT): 700台

ICT機器(プリンタ、USBメモリ、携帯電話など): 1,000機器(注3)

〔対象製品と購入数〕

- Systemwalker Desktop Patrol メディアパック (64bit) V16.2.1 必要数分
- Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 100クライアントライセンス for Windows 2本
- Systemwalker Desktop Patrol 500クライアントライセンス for Windows 1本

(4) 運用例4のシステム構成の場合

管理サーバ(CS): 1台

中継サーバ(DS): 1台(注1)

ゲートウェイサーバ(SS):1台(注4)

クライアント(CT) : 200台

〔対象製品と購入数〕

- Systemwalker Desktop Patrol メディアパック (64bit) V16.2.1 必要数分
- Systemwalker Desktop Patrol サーバライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 1クライアントライセンス for Windows 1本
- Systemwalker Desktop Patrol 100クライアントライセンス for Windows 2本
- Systemwalker Desktop Patrol ゲートウェイサーバライセンス for Windows 1本

(注1)台数分のクライアントライセンスを購入してください。

(注2)インストールフリーです。

(注3)資産管理台帳での管理対象としているパソコン、ICT機器の数にかかわらず、パソコン台数分のクライアントライセンスを購入してください。ICT機器はライセンス不要です。

(注4)台数分のゲートウェイサーバライセンスを購入してください。

8. サブスクリプションライセンス/サポートでの最新プログラムの提供について

サブスクリプションライセンス/サポート契約の一環として、最新バージョン/レベルのプログラムを提供いたします。（お客様からのご要求が必要です。）

9. パッケージ構成について

Systemwalker Desktop Patrol メディアパックには、以下のプログラムが同梱されています。

- サーバプログラム（サーバ機能）
- クライアントプログラム（クライアント機能）
- オンラインマニュアル

10. キャンペーン商品について

クライアントパソコンのセキュリティ環境を一括して管理する製品「Systemwalker Desktop Patrol」と、情報漏洩対策を行う製品「Systemwalker Desktop Keeper」の機能を、管理対象クライアント300台限定で使用できるセット商品を提供します。

なお、本商品は管理対象クライアント300台を超えてのご利用はできません。管理対象クライアント300台を超える場合は、通常の「Systemwalker Desktop Patrol」、「Systemwalker Desktop Keeper」をご利用ください。

11. 海外拠点端末の管理について

日本国内から海外拠点端末の管理を行う場合は、弊社営業/SEにお問い合わせください。

12. 購入時の特約事項

サブスクリプションライセンス/サポートの契約におけるライセンス使用条件の特約事項について記載します。

【V16.0.0以降】

[サーバライセンス for Windows (SL&S) に適用されるライセンス使用条件]

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) 一部機能の使用について

対象プログラムに含まれる機能の一部である、管理コンソール、棚卸端末用ソフトウェア、および自動検知モジュールについては、お客様は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号にかかわらず、日本国内において複数のコンピュータにインストールして使用することができます。

(3) オープンソースソフトウェア等について

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(4) 改造について

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号i., またはライセンス条件説明書記載の第5項「共通事項」第(4)号を下記のとおり変更するものとします。なお本項により変更された条項以外の条項は、有効に存続するものとします。

「お客様は、対象プログラムについて、改造したり、逆アセンブル、逆コンパイルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。ただし、本製品等のうちソフトウェア説明書に特定されたプログラムについては、本製品等とともに使用するオープンソースソフトウェアに適用されるGNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSEにより許される範囲に限り、改変を行えるものとします。」

[ゲートウェイサーバライセンス for Windows (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) 運用待機構成時

お客様が対象プログラムをインストールするコンピュータが、常時対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「運用系コンピュータ」といいます）と、運用系コンピュータが障害などの理由により使用できない場合にのみ対象プログラムが稼働するコンピュータ（以下「待機系コンピュータ」といいます）により構成されたシステムの場合は、1つのシステムを1台のコンピュータとみなします。その場合、お客様は、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号、またはライセンス条件説明書の第1項「基本的なご使用方法」第(1)号により運用系コンピュータに対象プログラムをインストールして使用することに加え、待機系コンピュータに対して、サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に定めるライセンス数分、対象プログラムをインストールして使用することができます。

(2) オープンソースソフトウェア等について

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

(3) 改造について

サブスクリプションライセンス/サポート製品のサービス仕様書記載の第3項「サービスの内容」第(1)号i., またはライセンス条件説明書記載の第5項「共通事項」第(4)号を下記のとおり変更するものとします。なお本項により変更された条項以外の条項は、有効に存続するものとします。

「お客様は、対象プログラムについて、改造したり、逆アセンブル、逆コンパイルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。ただし、本製品等のうちソフトウェア説明書に特定されたプログラムについては、本製品等とともに使用するオープンソースソフトウェアに適用されるGNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSEにより許される範囲に限り、改変を行えるものとします。」

【V16.2.1以降】

[1クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 10クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 100クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 500クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 1000クライアントライセンス for Windows (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

(1) オープンソースソフトウェア等について

本製品等のうち、富士通が別途定めるオープンソースソフトウェア等（以下「OSS」という）については、サブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書に加えて、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件が適用されます。ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件にサブスクリプションライセンス/サポートのサービス仕様書、またはライセンス条件説明書と異なる定めがある場合は、ソフトウェア説明書に記載されるライセンス条件の定めが優先して適用されるものとします。

【V16.0.0～V16.2.0】

[1クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 10クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 100クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 500クライアントライセンス for Windows (SL&S) / 1000クライアントライセンス for Windows (SL&S)に適用されるライセンス使用条件]

特約事項の適用なし。

1. Systemwalker Desktop Keeperと連携して構成定義の簡易化を行う場合

Systemwalker Desktop Keeperと連携して構成定義の簡易化を行う場合は、以下の商品が必要です。

- ・ Systemwalker Desktop Keeper V15
- ・ Systemwalker Desktop Keeper V16

2. 管理コンソール(AC)導入パソコンについて

(1) 「管理コンソール(AC)」を導入するパソコンでは、以下のいずれかの製品が必要です。

- ・ Microsoft Office Personal 2016(注1)
- ・ Microsoft Office Home and Business 2016(注1)
- ・ Microsoft Office Professional 2016(注1)
- ・ Microsoft Office Excel 2016(32ビット版)
- ・ Microsoft Office Personal 2019 (注2)
- ・ Microsoft Office Home and Business 2019 (注2)
- ・ Microsoft Office Professional 2019 (注2)
- ・ Microsoft Office Professional Plus 2019 (注2)
- ・ Microsoft Office Standard 2019 (注2)
- ・ Microsoft Office Excel 2019
- ・ Microsoft Office Home and Business 2021(注4)
- ・ Microsoft Office Personal 2021(注4)
- ・ Microsoft Office Professional 2021(注4)
- ・ Microsoft Office Professional Academic 2021(注4)
- ・ Microsoft Office Home 2024 (注5)
- ・ Microsoft Office Home and Business 2024 (注5)
- ・ Office LTSC Standard 2021(注4)
- ・ Office LTSC Professional Plus 2021(注4)
- ・ Office LTSC Standard 2024 (注5)
- ・ Office LTSC Professional Plus 2024 (注5)
- ・ Microsoft Excel 2021
- ・ Microsoft Excel 2024
- ・ Microsoft 365 Apps for enterprise(旧称Office 365 ProPlus) (注3)
- ・ Microsoft 365 Apps for business(旧称Office 365 Business) (注3)
- ・ Excel for Microsoft 365 Apps(旧称Office 365)

(注1)32ビット版 Microsoft Office Excel 2016が必須です。

(注2)Microsoft Excel 2019が必須です。

(注3)Excel for Microsoft 365 Apps(旧称Office 365)が必須です。

(注4)Microsoft Excel 2021が必須です。

(注5)Microsoft Excel 2024が必須です。

(2) Web GUI使用時は、以下のブラウザが必要です。

- ・ Internet Explorer 11(注)
- ・ Microsoft Edge

(注)デスクトップ版 Internet Explorerでの利用が可能です。

(3) マスタ構築機能で組織・人事情報の登録や出力をCSVファイルを利用して行うには、Microsoft Excel、またはワードパッド等のテキストエディタが必要です。

(4) ロケーションマップ機能を使用する場合には、以下のいずれかのソフトウェアが必要です。

- ・ Microsoft Office Visio Standard 2016(32ビット版)
- ・ Microsoft Office Visio Professional 2016(32ビット版)
- ・ Microsoft Office Visio Standard 2019
- ・ Microsoft Office Visio Professional 2019
- ・ Microsoft Visio Standard 2021
- ・ Microsoft Visio Professional 2021
- ・ Microsoft Visio Standard 2024
- ・ Microsoft Visio Professional 2024
- ・ Visio Pro for Microsoft 365 Apps(旧称Office 365)

3. ゼロトラスト関連機能について

- 検疫連携機能を利用する場合、ネットワーク遮断機能のある以下のどちらかの富士通製ソフトウェアが必要です。

- ・ FENICS CloudProtect Zero Trust Network powered by Prisma Access from Palo Alto Networks
- ・ FENICS CloudProtect WEBプロキシ (アセットセキュアアクセス)

- ローカルブレイクアウト機能を利用する場合、接続URLの例外指定 (ローカルブレイクアウト) に対応しているVPN (Virtual Private Network) ソフトウェアが対象です。事前に検証をお願いいたします。

1. Windows サーバOS (64-bit)上での動作

本商品の管理サーバ(CS)は、以下のOS上で64ビットアプリケーションとして動作します。(注1)

- Windows Server 2016 (64-bit)
- Windows Server 2019 (64-bit)
- Windows Server 2022 (64-bit)

(注1) 管理サーバ(CS)以外は、WOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

2. Windows デスクトップOS (64-bit)上での動作

本商品のクライアント、管理コンソール、自動検知モジュールは、以下のOSのWOW64(注)サブシステム上で、32ビットアプリケーションとして動作します。

- Windows 10(64-bit)
- Windows 11(64-bit)

注：Windows 32-bit On Windows 64-bit

3. Windows Server 2022/Windows Server 2019/Windows Server 2016/Windows 10/Windows 11上での動作

インベントリ情報（ハードウェア情報）について、キーボードタイプ名、マウスタイプ名、ディスクベンダ名、ディスク説明が英語で表示されることがあります。

4. Internet Explorer 11上での動作

(1)運用状況画面で表示される円グラフの影が表示されないことがあります。

(2)デスクトップ用Internet Explorerでの利用が可能です。

5. ソフトウェアライセンスの管理形態

(1) 本商品ではソフトウェアライセンスの管理のために、検索条件などを定義したソフトウェア検索辞書を利用します。これは、例えばMicrosoft Office Professional 2019製品を検索するために、その製品を認識するファイル名、サイズや日付などの条件定義です。

ソフトウェア検索辞書を定義しなくても、Windowsのコントロールパネルのアプリケーションの追加と削除に表示されるアプリケーションは、そのままの名前で検出/参照できます。ソフトウェア検索辞書を定義する事により、本商品の管理対象クライアント機能(CT)をインストールしたパソコン単位に、その使用者と関連付けてソフトウェアライセンスの管理を行うことができます。

(2) ソフトウェア検索辞書はお客様がローカルに定義を行うこともできますが、以下のソフトウェア製品の定義を含んだものを富士通サポートセンターから随時ダウンロードできます（サブスクリプションライセンス/サポートのサービスとして提供します）。

- ・ Microsoft Windows(OS)
- ・ Microsoft Office
- ・ Adobe社製品(サーバ製品は除く)

6. 旧版データベースの移行について

旧版からアップグレードする場合、旧版のデータベース情報は自動的に内蔵DBに移行されます。

7. リモート操作関連

(1) インストール関連

- Live Help Clientは、POS ターミナル「TeamPoS シリーズ」での動作を保証します。

Live Help Expertは、POS ターミナル「TeamPoS シリーズ」での動作は保証されません。

- Windowsベースの制御装置などの専用機は、動作保証外です。

- Expert, Connection Managerの各コンポーネントは、FTサーバのFtvirtual Server OS上での動作は保証しますが、CoServer OS上での動作は保証しません。

Clientは、Ftvirtual Server OS上およびCoServer OS上での動作を保証します。

- Systemwalker Live Helpと他社リモートコントロール製品を共存させることはできません。

他社のリモートコントロール製品(例:pcANYWHERE,LapLink,ReachOutなど)がインストールされているコンピュータにSystemwalker Live Helpをインストールすると、Windowsシステムが矛盾を起こして立ち上がらなくなる恐れがあります。Systemwalker Live Helpをインストールする前に、これらの製品がインストールされていないことを確認してください。インストールされている場合には、必ずアンインストールしてからSystemwalker Live Helpをインストールしてください。

- DAAS環境では使用できません。

(2) 旧版との接続性

異なるバージョンのLiveHelp製品を混在させて利用される場合、Expertは、Clientと同じかより新しいバージョンを使用してください。

(3) ファイル送信機能

Systemwalker Live Help V13より、Expertにおけるファイル送信機能を削除しました。拡張ファイル転送機能をご利用ください。

(4) マルチモニタ対応関連

Windowsでは、1台のコンピュータにグラフィックスアダプタを複数枚搭載し、作業環境を複数モニタに表示する機能をサポートしています。しかしSystemwalker Live Helpが画面転送できるのは、プライマリモニタに表示されている画面情報に限られます。セカンダリモニタ以降に表示されている画面情報は相手に転送できません。

また、[Expert]/[Monitor] プログラムはプライマリモニタでのみ、その動作が保証されます。[Live Help] ウィンドウおよびSystemwalker Live Helpのツールバーは、プライマリモニタの表示領域の中に配置して使用してください。

(5) 画面共有/リモート操作

Systemwalker Live Helpは、基本的にWindowsアプリケーションを画面共有して、リモート操作可能ですが、以下のアプリケーションについては、画面を見たり操作したりすることができません。

- フルスクリーン状態のMS-DOSプロンプト画面

- Direct X / OpenGL対応のアプリケーション画面

- 動画や音声を扱うWindowsアプリケーション

- 画面のプロパティで表示の設定を変更した後に、コンピュータを再起動しないと、正常に動作しないアプリケーション

- リモート操作で[画面のプロパティ]の[ディスプレイの詳細]タブにおいて、表示色数と解像度を変更することはできません。

- Live Help Clientのパソコンで動作しているWindowsアプリケーションをLive Help Expertがリモート操作する場合、Live Help Clientのかな漢字変換を使用することになります(自分自身のかな漢字変換は、使用できません)。

- Systemwalker Live Helpでリモート操作機能を使用する場合、Live Help ExpertとLive Help Clientあるいは、Live Help ExpertとLive Help Expertのキーボードタイプを一致させて運用する必要があります。キーボードタイプが異なる場合(例えば、OADGキーボードと親指シフトキーボード)、リモート操作機能を使用してキーボード入力すると、文字化けが発生します。

(6) ネットワーク関連

- LAN-WAN-LANの運用に際しては、WANの伝送帯域が64Kbps以上必要です。モデム運用時は、28.8Kbps以上のモデムが必要です。モデム運用の場合は、1対1の通信(Point-to-Point)のみ可能です。

- LAN運用での多地点接続の場合、Live Help ClientパソコンからLive Help Expertパソコンに送信されるデータ量は、Live Help Expertパソコンの数に比例して増加します(同一データを全相手に個別送信)。WAN経由等帯域の狭いルートを經由する場合は、レスポンスが低下します。

- NAT(Network Address Translation)環境については、Live Help ExpertとLive Help Clientの間に一方向の1:1静的NATのみが存在している場合でのみIPアドレス指定での運用が可能ですが、下記の場合は対応不可です。

- ・ Live Help ExpertとLive Help Clientが動的NAT、IPマスカレードを介して接続されている場合
- ・ Live Help ExpertとLive Help Clientの間に2段階以上のNATが存在している場合
- ・ Live Help ExpertとLive Help Clientの間に双方向のNATが存在している場合

(7) IPv6環境での動作について

- IPv6ネットワークへのダイヤルアップ接続はできません。

- 一台のクライアントに複数のLive Help Expertが接続してセッションを行う場合、IPv4で通信するLive Help ExpertとIPv6で通信するLive Help Expertは混在できません。

(8) Windows 8以降/Windows Server 2012以降のOSでの留意事項

- 画面のタッチ操作によるリモート操作はできません。

- サーバOSを「Server Coreインストール」した環境では動作しません。「完全インストール」した環境でのみ動作します。

- Clientに接続中にログオフした場合

リモート操作中に「ログオフ」操作を実行するとセッションが自動的に切断されます。

- Client接続中に、「ユーザの切り替え」を選択した場合

リモート操作中に「ユーザの切り替え」を選択すると、選択した直後から画面送信が一時停止状態になり、リモート操作では操作できなくなります。

なお、Client側の操作によって元のユーザに戻ると、画面転送が再開されます。

- Clientに対し、「CTRL+ALT+DELキー」を送信する場合

接続先のOS上で、ソフトウェアのSecure Attention Sequenceの設定を有効にする必要があります。設定方法はソフトウェア説明書の「Live Helpに関する注意事項」を参照してください。

- JIS X 0213:2004についての注意事項

・これらの文字をコンピュータ名、ログオンユーザ名、ドメイン名に使用している環境に、Live Helpをインストールし、使用することはできません。

・Live Helpの設定情報（ユーザ名、インストールフォルダ名など）にこれらの文字を指定すると正常に動作しない場合がありますので、指定しないでください。

・ファイル名（またはフォルダ名）にこれらの文字が含まれる場合、拡張ファイル転送機能の画面では正しく表示されません。

また、そのファイル（またはフォルダ）を送信・受信・比較することはできません。

Live Helpで接続し、接続先のコンピュータに表示されているこれらの文字を、画面上で確認したり、入力したりすることは可能です。

- Clientが動作しているコンピュータの画面配色をWindows Aeroに設定している場合

Live Helpのセッション開始時に"Windows ベーシック"に自動的に変更されます。セッションを切断した際には"Windows Aero"の設定が有効になります。

(9)Windows 11/Windows 10/Windows Server 2016/Windows Server 2019上での留意事項

- メッセージ転送機能で入力できる文字がASCII文字のみとなります。

- OSのアップグレードについて

Systemwalker Live Help をインストールしている環境では、以下の操作を行った場合、OSのアップグレードに失敗します。

- ・古いOSからWindows 10/Windows Server 2016/Windows Server 2019へOSをアップグレードする
- ・Windows 10の機能アップグレードを適用する

Microsoft社はWindows10に対して以下のように修正をリリースします。

・機能アップグレード

既に Windows 10 を実行しているデバイスに、最新の機能を提供します。

・サービス更新プログラム

セキュリティ修正プログラムとその他の重要な更新プログラムを提供します。

詳しくはMicrosoft社のWindows10の機能アップグレードに関する情報を参照ください。

Live Help をインストールしたままでOSをアップグレードするにはソフトウェア技術情報に公開されている、「Fujitsu Live Help graphics driverインストールツール V1.0」を参照の上、OSをアップグレードしてください。

(10) クラウド環境 (FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IaaS、FUJITSU Cloud Service S5、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azure 仮想マシン、パブリッククラウド上)での留意事項

1) クラウド環境上にLive Help Clientをインストールする場合、起動方式を「サービスとして起動 - 自動起動する」としてインストールする必要があります。

2) リモートデスクトップでクラウド環境に接続する場合、注意事項があります。

詳細は以下のマニュアルを参照ください。

- ・Systemwalker Live Helpユーザズガイド
- ・Systemwalker Live Help Clientガイド

(11) ターミナルサービスとの同時動作

ターミナルサービスとLive Help Clientの両方に接続可能な環境の場合、Live Helpでセッションを開始した際、または実行中に、以下の操作を行うと、「画面転送一時停止中」のダイアログが表示されることがあります。

- ・操作対象マシンがクライアントOS場合

操作対象マシンにリモートデスクトップ接続を行う。

- ・操作対象マシンが、サーバOSの場合

操作対象マシンのローカルでログオンしているユーザと同じユーザでリモートデスクトップ接続を行う。

また、上記の操作により、操作対象マシンのOSがロックされ、以降のLive Helpの接続ができなくなります。この状態から画面転送を再開させるには、以下の対処を行ってください。

- ・操作対象マシンに接続しているリモートデスクトップをログオフしてください。この操作で解消しない場合は、操作対象マシンのローカル上ですべてのユーザーをログオフしてください。

8. JIS X 0213:2004についての注意事項

Systemwalker Desktop Patrolのインストール先およびインストール作業時に入力する各種のテキストには、JIS X 0213:2004で追加された文字は使用できません。

9. リモートデスクトップ接続を行う場合の注意事項

Systemwalker Desktop Patrol V13.3.0以降を新規にインストールする場合を除いて、以下の機能はリモートデスクトップ接続での使用はできません。

- 運用環境保守ウィザード
- バックアップ/リストア

10. 混在運用できない製品について

本商品の混在運用できない製品に関する情報は、マニュアル「Systemwalker Desktop Patrol V16 解説書」3.2.3 混在運用できない製品をご覧ください。

マニュアルについては、「関連URL」に記載の「ソフトウェア：富士通（マニュアル）」を参照してください。

11. 仮想環境での運用について

以下の製品について対応しています。

[管理サーバ/中継サーバ]

- VMware vSphere 7.0/8.0
- Microsoft Hyper-V
- KVM

[管理コンソール/自動検知モジュール/クライアント]

- VMware vSphere 7.0/8.0
 - VMware Horizon 7.13 ESB、8.0
- 2006/2012/2103/2106/2111/2203/2206/2209/2212/2303/2306/2309/2312/2406
- Citrix XenDesktop 7.15LTSR/7.6 LTSR
 - Citrix Virtual Apps and Desktops 1912 LTSR/2203 LTSR/2308/2311/2402 LTSR/2407
 - Microsoft Hyper-V

12. IPv6での通信

以下のOSでIPv6での通信に対応します。

- Windows 10
- Windows 11
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022

13. ご利用前にお客様で必要な契約について

- 一般社団法人 ソフトウェア資産管理評価認定協会 (SAMAC) が提供するソフトウェア辞書を移入しご利用いただくには、事前にソフトウェア辞書を購入いただく必要があります。

14. Windows Server Update Services(WSUS)連携機能を使用する場合の注意事項

WSUS連携機能の使用には、以下の前提条件があります。

(1) 使用可能な管理サーバ(CS)

- Systemwalker Desktop Patrol 64ビット版の管理サーバ(CS)のみ

(2) WSUSサーバが動作するOS

- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server 2022

15. 対応パブリッククラウドについて

パブリッククラウドのご利用にあたっては、弊社営業/SEにお問い合わせください。

16. 前版との差異について

(1) ディスク消去コマンド

ディスク消去コマンドがサポート対象外となります。OS標準添付などのディスク消去ツールでの削除結果によるデータ消去管理を行えるようにします。

これに伴い管理サーバ(CS)画面において以下が変更になります。

- ダウンロードメニューの[ディスク消去コマンドダウンロード]を削除します。
- ダウンロードメニューの[ディスク消去結果アップロード]画面でアップロードする情報を、ディスク消去レポートからユーザーID/PC名に変更します。
- メインメニューの[ディスク消去]でディスク消去コマンドの[消去モード]の項目が表示されなくなります。

お客様向けURL

- **ソフトウェア：富士通（Systemwalker Desktop Patrol）**
製品概要や動作環境、導入事例、価格等、製品紹介資料を幅広く提供しております。
<https://www.fujitsu.com/jp/software/systemwalker/desktop-patrol/>
- **ソフトウェア：富士通（ソフトウェアの一覧表（システム構成図）と各種対応状況）**
価格/型名の一覧（システム構成図）を提供しております。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/condition/configuration/>
- **ソフトウェア：富士通（インフォメーション&ダウンロード）**
「ライセンスについて、くわしく知る」の項で
富士通製ミドルウェア製品のライセンスに関する解説、サポート期間などの情報を提供しております。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/information-download/>
- **ソフトウェア：富士通（マニュアル）**
富士通のソフトウェア製品に添付されているマニュアルが閲覧できます。
<https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/manual/>